

3Rで循環型社会へ Vol.1

3Rってなあに？

大量のごみがあふれ出て、地球が悲鳴をあげています。
環境を守るためには、どうすればよいのでしょうか。

今まで「ごみ」として捨ててしまっていたものを、これからは「資源」として繰り返し使っていくことが必要です。つまり「使い捨て型社会」から「循環型社会」に変えなければなりません。

- そのために
- ①ごみも資源ももともと減らす (Reduce/ リデュース)
 - ②繰り返し使う (Reuse/ リユース)
 - ③資源として再び利用する (Recycle/ リサイクル)

R educe

リデュース

ごみも資源ももともと減らす

- ・過剰な容器包装はできるだけ控えよう。
- ・壊れにくく、長く使える製品を買おう。



R euse

リユース

繰り返し使う

- ・リターナブル容器 (牛乳ビンのようにお店で回収し、洗って再び使えるようにする容器) のものを買おう。
- ・いらなくなった物は欲しい人に譲ったり、リサイクルショップに売ろう。

R ecycle

リサイクル

資源として再び利用する

- ・資源を分別し、リサイクルしやすくしよう。
- ・再生紙ノートなど、リサイクルされた製品を買おう。

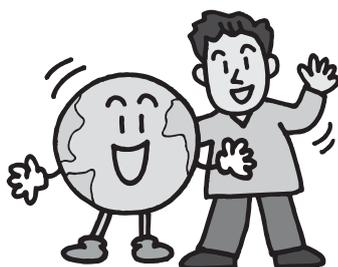


4R・5Rってなあに？

「3R」のほかに「4R」「5R」という言葉を聞いたことがあるかもしれません。
「4R」は、「3R」に「Refuse リフューズ 必要のないものを断る」が加わったもの。
「5R」は、さらに「Repair リペア 修理して使う」が加わったものです。



いろいろな行動がありますが、共通するのは「ごみも資源ももともと減らそう」という考え方です。



毎月第4土曜は 廃食用油回収の日

10月26日午前10時～正午

回収会場：市役所別館横電話ボックス付近
回収物：廃食用油、牛乳パック、アルミ缶
問環境課 ☎ 587 - 6003、エコロジーマーケットやすの会・増村 ☎ 586 - 1441



◆環境課
☎ 587 - 6003
FAX 587 - 3834

歴史の小窓

—学芸員のメッセージ—

109

歴史民俗博物館

☎587-4410、Fax587-4413

日本最大銅鐸の里帰り

銅鐸博物館では、10月5日(土)～11月24日(日)まで開館25周年記念企画展「銅鐸—日本最大銅鐸の里帰り—」を開催します。銅鐸博物館開館以来、これまで展示されることがなかった日本最大の銅鐸が東京国立博物館から初めて里帰りすることにになりました。

銅鐸は弥生時代中期初頭に現れた祭祀用のカネです。小篠原の大岩山から出土した銅鐸は、弥生時代後期の銅鐸群です。明治14(1881)年に14個が発見され、さらに昭和

和37(1962)年にも、大岩山が国鉄新幹線の土砂採取場となり、10個の銅鐸が発見されました。

最大銅鐸が発見され、東京国立博物館に所蔵される経緯について、残された明治の発見記録や関係文書から見えます。

明治14年8月20日、午後3時頃、野洲郡辻町村の小野田金太郎さん(14歳)と森岩松さん(16歳)が同郡小篠原村字大岩山へカワセミの巣穴探しに行ったところ、土取りの

斜面に青い木の葉のようなのが見えたので、竹の棒で12～15cmほどを掘ると金物にあたり、さらに掘り進むと銅鐸3個が入れ子状に重ねて差し込むような状態で発見されました。少年たち二人は、この日3個の銅鐸を持ち帰り役場へ届け出ます。

翌日21日午前7時頃、小篠原村の井狩米吉、富田仙吉、櫻田八次郎、高橋半次郎さんらが、大岩山へ砂利取りに出かけて行くと、昨日見つかった銅鐸の場所を見るために、辻町村の人たちが集まっています。井狩米吉さんたちは、持ち合わせていた鋤で掘ると、銅鐸が横に並べた状態です。11個が現れたと言います。これで銅鐸の総数は、前日に掘り出した3個と合わせて総計14個が出土したことになりました。

日本最大の銅鐸



2号銅鐸



日本最大の銅鐸(1号鐸)と2号鐸は、この時に掘り出されました。1号鐸は高さ134・7cm、重さ45・4kg、2号鐸は高さ74・1cm、重さ14・31kgで、いずれも銅とスズを主成分とする青銅器です。銅鐸の表面には縦横に突線つせんを配して、区画をつくる袈裟さし文様は、僧侶の着衣の

袈裟に似ていることから、その名称が付けられました。これら2個の銅鐸が東京帝室博物館(現東京国立博物館)に所蔵されるようになったのは、明治政府の埋蔵文化財行政と関わっています。明治10年9月27日に政府が出した通達により、埋蔵物を発掘した場合は、内務省へ届け出、検査を受けます。そして価値があると判断されたときは、博物館へ発掘品を送り、博物館がその品を評価し、必要と認められれば、博物館が購入するという制度が確立します。明治16年2月、1・2号鐸はこの制度により、東京帝室博物館に収められま

す。残る12個の銅鐸は、「遺失物取扱規則」により明治16年3月に草津警察署から土地の所有者へ払い下げられました。その後、払い下げられた銅鐸は行方不明となりますが、銅鐸研究者の探索で14個のうち12個までを見つけたことができました。10月5日(土)からの銅鐸里帰り展では、東京国立博物館が所蔵する大岩山出土の銅鐸をはじめとして希少な銅鐸6個をご覧いただけます。明治以来の銅鐸里帰りのこの機会に、ぜひご来館ください。(博物館学芸員 徳網克己)